

新給食センターでの市内農産物の利用を！

民報

おうしゅう

読者版

発行
赤旗奥州出張所
水沢大手町三丁目 59
Tel 24-2021
Fax 24-2049

奥州市議会令和7年第3回定例会（9月議会）は9月26日開会しました。今定例会中に行われた決算審査における、日本共産党奥州市議団の質疑内容についてお知らせします。

【農林部等】

佐藤美雪議員は、地産地消計画の推進計画の中で、課題としているのが、学校の給食施設へ統合後、市内の農産物が納品されるかどうか問題として挙げられており、大きなロット数になる事も要因だと思いが、学校給食センターの統合が来年度に迫っている事から、具体的な対応策を検討されているのか、質しました。

教育委員会と連携

担当者は「新しい学校給食センター建設中の近くにある農業生産法人からは、すでに、自分たちで生産しているものを、地元の子供たちに食べてほしいけれども、どうやったら納品できるのかというような話もあり、教育委員会にも情報をつないでいる所である」と述べました。

有機野菜の利用を

佐藤美雪議員は、学校給食に有機野菜を利用してほしいという声が多いので、市内の有機野菜栽培に取り組んでいる農家の生産物を活用すべきでは、と質しました。

地元のものを活用

担当者は「有機野菜や主食米についても、地元施設ができるということ、食べてもらいたいという思いは強くなっていると思うので、教育委員会と連携しながら、地元のものを使えるという方向で進めていきたい」と述べました。



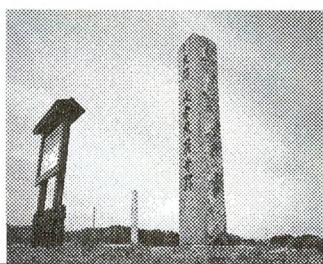
【商工観光部門】

世界遺産の現状は

菅原明議員は、世界遺産連携推進実行委員会の内容と目的について、質しました。

PR活動を盛んに

担当者は「世界遺産連携推進事業については、平泉町が事務局となり、平泉町、一関市を中心に、主幹団体である商工団体を中心に事業を展開した。事業内容は、広域の周遊型の促進事業や教育旅行、2次交通対策に関する懇談会や、誘致事業等様々な事業展開をし、今年度は、平泉インターチェンジの駐車場を活用して、世界遺産祭りを開催し、PR活動を行った」と述べました。



世界遺産登録を目指している長者ヶ原廃寺跡（衣川）

おうしゅう湖エリアの

今後は

今野裕文議員は、おうしゅう湖周辺エリアは、体験型観光委託地域になっており、アウトドア推進協議会の設置準備が、一定の業者が集まって協議されている事から、それらの目的や今後の方向性について質しました。

自立することが創出に

つながる

担当者は「推進組織については、なるべくなら自主的な活動に繋げればいいとの考えから、行政がいつまでも関わっていくのではなく、自立する流れに進むことがプロジェクトの目標であり、創出につながるものと考えている」と述べました。

今後中小企業へ支援を

奥州市は、物価高騰で影響を受けた中小企業等の下支えとして、国の交付金を活用して、法人に対

しては1004件、8032万円（1法人8万円）、個人事業主には1599件、6396万円（1人4万円）となりました。

千葉敦議員は、景気低迷が続き、景気が回復していないので、中小企業等に対して今後も支援が必要ではないか、と質しました。

有効な対策を検討していく

担当者は「基本的には国の交付金が財源であるが、有効な対策について商工団体と情報交換しながら今後も検討していく」と述べるとどまりました。

くらしと人権、平和と憲法守ろう！

市民アクション

自動車パレード&スタンディング（並行開催）

11.1（土曜日）

Zプラザアテルイ駐車場

- ◆ 集会
- ◆ 自動車パレード出発 10:00~12:00
※水沢~江刺で解散
- ◆ スタンディング 10:00~11:00
※Zプラザアテルイ交差点角

あなたも参加を!!

主催/国民大運動胆江地区実行委員会

連絡先/(胆江民商内) 24-0716